

「全国青少年体験活動推進フォーラム」開催要項

－with コロナ時代における体験活動の質の高め方－

1. 趣旨

子供の健やかな成長のためには、自然体験活動や社会体験活動等を含め、多様な体験活動の機会を充実させることの必要性が求められている。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子供たちに十分な体験活動を提供できていない現状がある。そのため、発達段階に応じた体験活動の重要性について理解を深めるとともに、新型コロナウイルス感染症流行下での体験活動の実践について検討し、全国に普及啓発する機会とする。

2. 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家

3. 後援 新潟県教育委員会

妙高市教育委員会 上越市教育委員会 糸魚川市教育委員会

4. 期日 令和3年11月6日（土）

5. 会場 国立妙高青少年自然の家

6. 対象 青少年教育指導者、教員、学生、教育関係者、幼稚園教諭・保育教諭・保育士、体験活動に興味がある者、企業でCSR活動を実践している者、体験活動の指導者・指導者を目指す者等

7. 募集人数及び申込について

（1）募集人数 100名程度

（鼎談は、Webによる視聴も可能）

（2）申込期限 会場参加・ライブ配信10月22日、オンデマンド配信11月30日

（3）申込方法 FAX・Webフォームにて申込み

8. 日程及び内容

【11月6日（土）】

9：40 受付

10：15 開会

10：30 鼎談（同時Web配信、オンデマンド配信）

「体験活動のススメ—withコロナ時代における体験活動の質の高め方—」

・明石 要一 氏（千葉敬愛短期大学 学長）

・近藤 真司 氏（一般財団法人日本青年館

公益事業部「社会教育」編集長）

・平野 有海 氏（気象予報士）

12:00 昼食

13:00 分科会

①幼児期の自然とのふれあい・遊び・体験と学びの接続

コーディネーター：小菅 江美 氏

(NPO 法人緑とくらしの学校)

【事例発表】

・ササビー広場を活用した体験活動の実践

(国立赤城青少年交流の家)

・自然の家を活用したときわ保育園の取組

(妙高市ときわ保育園)

②小中学生期の自然や人との関わり方

コーディネーター：小林 朋広 氏 (国立妙高青少年自然の家)

【事例発表】

・長期キャンプの実践 (国立信州高遠青少年自然の家)

・課題を抱える青少年を対象とした「はつらつ体験塾」

(新潟県少年自然の家)

③青年期における社会とのつながりー想いをカタチにする方法ー

コーディネーター：渡辺 径子 氏 (上越教育大学)

【事例発表】

・学生ボランティアコーディネーターの取組

(新潟青陵大学ぼらくと)

・東京オリンピック・パラリンピックへの参画に向けた取組

(学生団体おりがみ)

④企業による学びの応援ー子供たちの未来のためにー

コーディネーター： 中野 充 氏 (新潟青陵大学)

【事例発表】

・妙高青少年自然の家の取組

(国立妙高青少年自然の家)

・新潟県立海洋高校の取組

(新潟県立海洋高校)

14:40 閉会式 (各分科会の情報共有を実施)

15:00 閉会